

**平成25年度**

**あいち多文化共生作文  
コンクール入賞作品集**

【優秀賞（小学生の部）】

東浦町立石浜西小学校 二年 加藤 真彩  
『わたしの学校』 . . . . . 一頁

【優秀賞（中学生の部）】

半田市立成岩中学校 一年 青木 七瀬  
『寄りそうために』 . . . . . 二頁

【佳作】

蒲郡市立蒲郡北部小学校 六年 羽田 海奈恵  
『私の友達』 . . . . . 三頁

豊橋市立東部中学校 一年 牧野 ひなの  
『認め合うということ』 . . . . . 四頁

刈谷市立朝日中学校 一年 宮下 ラリサ  
『日本人の友達』 . . . . . 五頁

岡崎市立美川中学校 二年 山上 野乃佳  
『笑顔がつくってくれること』 . . . . . 七頁

豊明市立豊明中学校 二年 小原 ユリ  
『多文化共生社会について』 . . . . . 九頁

【優秀賞（小学生の部）】

わたしの学校

東浦町立石浜西小学校 二年 加藤 真彩

わたしの学校には、多文化共生フェスタという行事があります。いろいろな国の民族衣装を着たり、いろいろな国のクイズをしたり、世界の国旗のワッペンを作ったりしました。わたしの住む日本とは違う国のことを学べて、とても楽しかったです。多文化共生フェスタのあと、いろいろな国に興味を持つようになりました。

わたしのクラスにも、ブラジルやフィリピンなど、いろいろな国のお友達がいいます。入学したときは、言葉が分からなくて、とても緊張しました。なかなか話しかけれなかったけど、今ではみんなで遊んだり、勉強したり、時々ケンカもするけど、みんな仲良しです。仲良くなれて、とてもうれしいです。

わたしの仲良しなお友達に、ポルトガル語を話す子がいます。わたしのクラスには、ポルトガル語の通訳の先生もいます。お友達や先生が話す言葉は、全然分かりません。お友達や先生が、何を話しているのか知りたいと思い、今、お友達に、ポルトガル語を教えてもらっています。とても難しいけれど、ポルトガル語が書けるようにがんばりたいです。

一年生の時、みんなで「ボクラノセカイ」という歌を歌いました。わたしは、この歌が好きです。特に、「世界のラブ&ピース願うのはユー&ミー少しずつだけど変えられる未来、僕らめいっばいお互いの違い認めるためにも。」という歌詞が好きです。この歌のように、お互いの違いを認めて、仲良く暮らしていけたらいいなと思いました。

もし、いろいろな国の子が、学校で、勉強に困っていたら、わたしが助けてあげたいです。

## 【優秀賞（中学生の部）】

寄りそうために

半田市立成岩中学校 一年 青木 七瀬

この作文を書くにあたって、外国の人が近くにいるかと考えた時、小学校二年生だった頃のことを思い出されました。私はその時、県営住宅に住んでいました。ある時、同じ棟の一階にブラジル人の家族が引っ越してきたのです。

当時、県営住宅には一五〇㎡くらいの空地があり、ちよつとした子どもたちの基地のようになっていました。そこは、あまり手入れがされておらず、夏になるといつも草がたくさん生えていました。ブラジル人のお父さんは、自分から伸び放題だった草を草刈機できれいに刈ってくれて、空地はとてもきれいになったのです。「いい人だね。」と最初のうちはみんな言っていました。その空地にサッカーゴールを置き、他のブラジルから来た家族を呼んでバーベキューをやるようになり始め、そこから雰囲気が変わりました。住宅の所有地なのに、一人占めしていると思われてしまったのです。その家族はだんだん孤立していききました。私は、その人たちとよく話をしていました。話している時、みんなとても優しい親切な人たちでした。母が言うには、ブラジルから来た人たちがこのように孤立してしまうのは、めずらしいことではないそうです。ブラジル人の中にも日本人と仲良くなるために、地域のサークル活動に積極的に参加する人はいますが、大概は「言葉のカベ」のせいで、コミュニケーションを取ることをあきらめ、同じ出身の人たちで集まってしまうというのです。せつかく遠い国から日本にやってきて、同じ地域に暮らしているにも関わらず、国というまとまりのグループでしか生活できないのは、悲しいことだと思います。けれどもそれは、私たち日本人にも原因があるのかもしれない。

私の学校でも、ちよつと周りと違うことをすると、周りから仲間はずれにされたり、もしくは、それが怖くて、他人と違うことが出来なくなってしまうことがあります。日本人同士がそうなのに、外国の人が孤立するのは仕方がないのかもしれない。しかし、私はそうさせたことはありません。例えば、私が外国人として遠い国へ行ったら、寂しい気持ちになると思います。だから、外国から来た人には、きちんと声をかけたいと思っています。

確かに、国によつて、常識は異なりますが、それを理解してあげる、そんな心が現在の日本には足りない点だと思います。

もつと外国からやってきた人とコミュニケーションを取るため、私はそれぞれの国に合わせたあいさつをする、「国別あいさつ運動」をして、毎日違う国の人とふれあう時間ができると思います。

現在の日本は、少し差別の心が大きいと思います。そんなことばかりしていたら、外国の人といつまでも歩み寄れないまま、同じ地域に住んでいるのに話さない、という感じになってしまいます。だから、国と国との距離を縮めるため、お互いに歩み寄る気持ちをもち続けましょう。

## 【佳作】

### 私の友達

蒲郡市立蒲郡北部小学校 六年 羽田 海奈恵

私の小学校には今、フィリピンから来た姉妹の友達があります。今はとても仲良くしてありますが、実は四年生の時にも来ていたのに、私は全く話しかけることができず、今のように仲良くなることができませんでした。しかも、その子達はフィリピンへ帰ってしまい、もう会えないのだなあと、友達になるのはあきらめていました。

でも、6年生になって、また日本へ来てくれたので、今度こそはと勇気を出して、分かる範囲で話しかけてみました。習ったばかりの自分の英語が伝わった時は、とてもうれしかったです。時々伝わらないこともあり、大変なこともありました。でも、身振り手振りを使って、少しずつ仲良くなることができました。今は、部活も委員会も同じです。フィリピンの主要言語「タガログ語」を教えてもらうこともあります。全く知らない言葉を覚えるのは、わくわくして楽しいし、それが通じると、とてもうれしいです。私は今年の夏休みに、小学校の代表として海外派遣でアメリカに行きます。アメリカでは英語しか通じず、困ることが多いと思います。でも、その友達が日本に来て、私達と一緒に普通の生活をしているのを見ているうちに、少し落ち着き、自信を持てるようになってきました。

父母が小学生のころは、外国人を見かけることは少なかったそうです。私達は子供の時から異国の人や文化、言葉にじかに接することができるので、すばらしいし、楽しいことだなあと感じます。

その子達はまだ、日本語の単語を少ししか話せません。だから、タガログ語を教えてくださいました。日本語を教えるべきかと思いましたが、私も、もともとたくさんタガログ語を覚えて、日本語とタガログ語の両方を使って、コミュニケーションがとれるようになりたいです。これからも、今以上に仲良くしていきたいと思っています。

## 【佳作】

認め合うということ

豊橋市立東部中学校 一年 牧野 ひなの

私たちが住んでいる、この地域にはたくさんの方々が生活しています。その中には、国籍、民族などが異なる様々な人たちがいます。

私が通っている中学校には外国の友達がいいます。小学校が同じだった友達もいます。その友達は一年生くらいのころは、友達が少なくて、仲間はずれにされていたこともあると言っていました。私もそのころは、外国の人ということ、話しかけるのが難しかったり見た目だけで判断したりしていたと思います。まだ、その友達はあまり日本語が話せなくてポルトガル語で話している時が多かったので、距離感もありました。

でも、一緒に授業を受けたり、遊んだりしていくうちに外国人という意識はなくなっていきました。一緒に笑ったりできる友達なんだと思うようになり、みんなが認め合い、協力できるようになっていきました。

そこで、私はどれだけ外国の友達が苦労しているのか知りたいと思いました。学校の授業で、ブラジルの先生が来て授業をするという体験がありました。でも、言葉が通じなくて、何を言っているのか全然分からないので、だんだん授業がいやになってきました。

授業が終わった後、ブラジルの友達に聞いてみると、それは一年生でも解けるような簡単な内容でした。その時私は、外国の友達はいつもこんな授業を受けているんだ、苦労しているんだということが分かりました。

でも、そんな授業を受けている外国の友達がすごいとも思えました。

私は、この体験を通じて、外国の友達の苦労や外国の友達の気持ちが少しでも分かったので、よかったと思います。やっぱり、相手の気持ちになって考えてみるのが大切だと分かりました。

そこで、私がおたがいのことを知ること大切だと思い、アンケートをとることにしました。外国の人は日本の人のことをやさしいと思っている人もいれば、こわいと思っている人もいることが分かりました。逆に、日本の人は外国の人のことをこわいと思っていたり、マナーが悪いと思っていることが分かりました。

後で聞いてみると、日本ではマナーが悪いこともブラジルでは普通なことだというのが分かりました。日本の人たちはそんなことも考えずに外見などで決めていたりするから、もっと外国の人と日本の人がおたがいのことを知ることが大切だと思ったし、分かり合えるといいなと思いました。

私は、そのためにも、これからは外見だけでは決めつけずに、相手のことも考えたいと思ったし、外国の人と同じ日本人の人も同じ人間なんだから、差別などをせずに同じように接していきたいと思いました。

だから、国籍、民族などが異なる様々な文化や個性を持った人々が、たがいの違いを認め、安心できる地域にしていけるといいと思いました。

私たちだけではなく、地域の人たちも、おたがいのことを知り、認め合っていくということが大切だと思うので、地域全体がたがいの違いを認め合える、そんな地域にしていきたいです。

【佳作】

日本人の友達

刈谷市立朝日中学校 一年 宮下 ラリサ

私が多文化共生作文を選んだ理由は、自分が外国人であって、私にとっては先生とか学校のみんなが外国人ということです。私の友達は日本人で私はブラジル人です。学校では日本語で話をしているけれど、家ではポルトガル語を話します。時々自分の言いたいことが日本語では出てこなくて母国語で話すことがあります。私の友達の一人はポルトガル語に興味を持って、問いかけてきてノートにメモをとっている子がいます。その姿を見てお互い外国人であって、言語とかを交換し合うことはとても楽しいことだと思います。その友達も外国人だからと差別はしてこなくてとても嬉しくなりました。人間はみんな平等で黒人とか白人とかそういうのは関係なく一番大切なのは心だとその友達に出会ってわかったことです。

平均の寿命が60歳だとしたら、六分の一しか日本で過ごすことはないから外国にいることの大切さを生かしてこれからの日本生活を楽しくしていきたいなと思いました。

ある日友達が家に遊びに来た時に、

「おじやまします。」

と言いました。私は日本人の家だと日本の習慣なので言いますが、ブラジルでは言いません。その時習慣の違いを知りました。また、ブラジルでは靴のまま家の中で暮らします。でも、日本は靴をぬぎます。そこも違うことだとわかりました。そこで日本のほうが礼儀正しいと思いました。日本人は習慣が良いと思えました。あと授業とかでわからない問題があった時に納得するまで説明してくれていいなと思いました。

でもその半面、ケンカとかをすると鬼のようになります。でも仲直りをして、またケンカしてみたいな感じで本当の友達になっていくと思いました。部活動でも、

「頑張ろう。」

とか

「あきらめないで。」

とかはげましてくれることもありました。

それが落ち込んでいる時の力になっています。あとクラスの中を見てみるとみんな優しく接してくれるし、外国人の意見とかも聞けるので良いです。学校の行事でどこかに行くこともいいふれあい方だし、自然とかを見に行ったりした時はとても楽しかったです。こうやって外国人の友達とふれ合うのはとても楽しいことだし、友達との絆が深まるので、そういった学校の行事は友達とふれあって、絆も深まるとってもいいことだと思います。仲間と協力することも絆を深める一つとなることを知りました。

前に学校の行事で弁当を持っていった時に、日本食とブラジル食があっているいろいろ交換して友達は、

「へえー、ブラジルの食べ物はこの味なんだ。」

「日本とかは全然味付けが違うね。」

と言われました。なんだかうれしくなりました。こうして、食文化とかも学べるので、外国の子とふれあうことは良いというか、幸せだなと思いました。日本の真反対で一番遠い国がブラジルで友達にはブラジルの治安のことを話したことがありました。その友達は、治安のことを聞いて

「怖いね危くない。」

と言ってきました。でもブラジルでは、ある地域が危ないだけであってその他の地域は危なくないと言うのですが、その友達は、

「ブラジル全体が危ないんじゃないんだ。」

と言いました。「ブラジルの治安」の7文字だけで悪いイメージになるかもしれないけど、危ない場所だけじゃなく、日本よりも静かな所があるということを知っていないから、ブラジル全体は危ないと認識してしまって、結局悪いイメージになることもあります。

でも、日本人にもブラジルの良さを知ってほしいと思いました。カーニバルとかのことを言ったらブラジルの魅力に気付いたと思います。日本人だって自分の国が危ないとか怖いとかと言われたらきつと嫌な気持ちになると思います。どちらも同じです。でも日本人には理解できる心があるので理解をしてほしいと思いました。なので、世界みんなが平等で同じ人間だからお互い自分たちの国の良いことをいつていきたいなと思いましたが。自分たちの国と友達とかの国の良さをこれからも知っていききたいなと思うし、日本だけではなく他の国のことについて知っていききたいと思えました。

日本人だけじゃなくて、他の国の人たちともふれあいたいし、国の良さを知っていききたいと思いました。愛知県の中でも外国人はすごくいると思います。そのチャンスはいくらでもあります。外国人と仲良く生活をするためには互いの国の良さとか習慣の違いとか言語の違いなどを知っておくことや、互いの国の違いなどを知っておくことが生活することや一緒に暮らすためには必要だと思いました。仲良く一緒に暮らすためには互いの信頼関係が必要だと思いました。外国人だからと差別をするのはいけないことだと思つたし、人間はみんな同じ地球にいるからみんな仲良く暮らしてほしいなと思いました。



【佳作】

笑顔がつくってくれること

岡崎市立美川中学校 二年 山上 野乃佳

「新しい友達を紹介する。」

これは約三ヶ月前に私のクラス、二年一組で担任の先生が言った言葉である。私のクラスにフィリピンと日本のハーフの男の子が転校してきた。私はいきなり日本語が全然話せない子が同じ空間で学校生活を一緒に過ごしていくことに、期待と不安で胸がいっぱいになった。

彼が転校してきた次の日。みんなはどんどん彼と話して、仲良くなっていた。席の近い男子達は自分から英語をたくさん使い、意味が分からなくても、相づちを打っていて、彼はとても楽しそうだった。けれど私は席もそんなに近くないし、緊張してしまっただけ全然話しかけることができなかった。はやく友達になりたいのに。もっとたくさん話してみたいと思った。クラスのみんなと彼が仲良くなれるといいな。でもクラスのみんな、四十人なんてまだまだな気がする・・・。

私は彼にびっくりしたことがある。それは日本語の上達が本当に早いことだ。七月のころにはもう、「ありがとう」、「ごめんね。」など日常で使う言葉はほとんど使えるようになっていた。私たちが英語を習うスピードよりもあきらかに早い。しかも日本語を勉強する時間は一日一時間。そんな時間で毎日頑張っていて本当にすごいと思う。それにちよつとぶつかっちゃっただけで本当にもうし訳なさそうに、

「ごめんね。」

と言ってくれる。思わず私はにっこり笑って、

「いいよ、いいよ。」

と言った。やっぱり一生懸命になって何かをしている人には自然に相手側もいい気持ちになって、優しくなれると改めて思った。それだけではない。もう一つは給食の時間だ。日本とフィリピンでは食べるものも違うのに、たくさん食べている。「いただきます。」や、「ごちそうさま。」もしっかり言っている。文化が違うし、何をしているかも分からないと思うのに彼は本当に頑張っている。その心を見習いたいと思う。授業も同じだ。理科や社会など、何にも分からない授業でも黒板に書いてあることを写している。それに自分から、漢字の勉強をしたい、と言って漢字ノートにたくさん練習している。プリントを書く名前もひらがなだったのに、最近は漢字で書いていた。字もとても上手でちよつとでも日本の暮らしに慣れようと努力してくれていて私も嬉しくなった。彼の得意、と言うか言語になる英語。彼の英語の発音には、みんながおどろかされている。授業の中のゲームなどもすごく楽しんでくれているように見える。私から見れば彼は楽しんで

学校に来てくれていると思う。まだ美川中に来て約三ヶ月だけど、もっと美川中になじんでくれればなあと思う。

最初のころは仲良くなれなかった私でも、今は結構話すことができていると思っている。席が近くなり関わることも多くなったのだ。彼が分からないことなどを教えてあげたりすると、

「ありがとう。」

と笑って言ってくれる。日本に来てまだわずかなのに、これだけ話せるようになって、暮らしに慣れてくれて良かった。私たちが彼のために英語を使って話したり、次の授業は何か教えたりする。これも伝えるのは結構大変だ。でも、それ以上に彼の方が大変だと思う。そう考えると私は最初、緊張して話しかけづらくてなかなか話せずにしたけれど、彼の方が全く知らない、言葉の通じない空間に放り出されているのだから、びくびくしていたと思う。だから私はもっとたくさん話してあげれば良かったと反省している。担任の先生が言っていた。

「彼は今、学校に来るのが楽しいと言っている。それはお前たちのおかげだ。彼のためにいろいろしてくれて本当にありがとう。」

と。これを聞いて私は彼が私たちの中学校生活に加わってくれて、一緒に楽しい時間を過ごして良かったなと思った。今は夏休みで、会うときは全然無ければ二学期になったらまたいつでもどおりに接したい。

違う国の友達と仲良くなるには、話しかけることも大切だと思う。だけど私が思う一番の方法は笑顔だと思う。みんながにこにこすれば自然とにこになるからだ。だからまた違う外国の友達と接するときがあったら、笑顔で話しかけたいと思う。

## 【佳作】

### 「多文化共生社会について」

豊明市立豊明中学校 二年 小原 ユリ

私は、今回を機に多文化共生社会について考えました。私自身、一応外国人です。私の学校にもたくさん外国人がいます。でも、みんな国籍を問わず、日本人も外国人もみんな仲良しです。私は小さいころブラジルへ行き小学校低学年の時に日本に帰ってきた時は、まだまだ日本語が下手で、お箸も上手に使えず、できない事がたくさんありました。日本とブラジルでは色んな違いがあると一番思っていた時です。クラスで日本人の友達も少なく失敗も多かったし、ブラジル人として理解してもらえないことも少しありました。今は、そういうことは全くといっていいほどありません。少し前まではもう大丈夫と思っていました。

でも、この作文を書くことで、以前の自分のことを思い出したり、学校に転入してくる外国人の子たちを思い出したりしました。やはり外国人の子は最初はすごく苦労してやと日本人の子たちとなじめるのです。でも、やはりそういう外国人の子たちの苦労が少なくなり、少しでも早く日本人の子たちとなじめるようになったら良いと思います。外国人の文化も大切にしながら日本人となじみ、よりいつそう仲良くなれば、それこそ多文化共生社会だと思います。

そのためにも、日本人が外国人の文化にもっと興味をもったり調べたり聞いたりして、もつと外国のことを知って欲しいです。外国人もたくさん日本をわかってほしいと思います。でも、もつと日本を知って欲しいです。日本人も外国人も、みんながお互いをもつと知れば、それが多文化共生社会になるための第一歩だと思います。

日本にはたくさんすばらしい文化があると私は思っています。外国もきつとそうだと思います。日本人や外国人はきつとお互いに悪い印象や良い印象がいろいろあると思います。でも悪い印象ばかり見るのではなく、良い所をたくさん見て日本人と外国人の交流が多くあれば良いと思います。日本には洋食や中華料理、洋服など外国のものがたくさんあるように外国にも同じように日本のものが多くあると思います。

これからも日本に外国の文化をもつととり入れて、外国に日本の文化をもつと伝えていけばよいと思います。日本も外国も、それぞれ自分たちの国の文化を忘れず大切にしていくと共に、外国の文化のすばらしさを知ったり、理解したりすることをみんなでやりたいです。

将来、私が大人になってもたくさん日本人や外国人と仲良く、お互いを理解しあったり、お互いの文化などに興味をもったりして、良い時間を過ごしたいです。

仕事もたくさん日本人、外国人と交流してもつともつといろいろな国の文化を知りたいです。多文化共生社会を完璧に実現されるのはむずかしいと思うけれど、「まずは自分から」を合言葉に、今も明日も未来も多文化の中で自分の文化、外国の文化などを大切にしていきたいです。そして、自分の知っている文化すべてをたくさんの人に広めたいです。

いつまでもたくさんの人たちと交流を大切にし、いつもたくさん文化にふれていきたいです。